

# 096 明治時代 松方財政

## 大隈財政

- 西南戦争 の戦費をまかなうため、不換紙幣 だじょうかんさつ の太政官札を大量発行。
- 国立銀行 の乱立(第 153 国立銀行まで)  
1871年に渋沢栄一が作った国立銀行条例にもとづき、国立銀行券 という兌換紙幣を発行できる銀行です。はじめ国立銀行を設立するには金銀との兌換義務という条件があって、第四国立銀行までの4行しかできませんでした。そこで1876年に兌換義務を解除したら、いっきに第153銀行まで増えてしまいました。
- 武器・軍艦を海外から輸入するときは 金銀の正貨 で輸入→政府の正貨が底をつく  
西南戦争の戦費は国内には紙幣を印刷して払う  
→お金の価値が下がって インフレ が進行
- 工場払い下げ概則 を制定  
大隈、官営の赤字工場のをなるべく高値で払い下げて、国の金銀を増やして国の信用を高めようとした。

## 1881.3 明治十四年の政変で大隈失脚

## 松方財政

新しい大蔵卿 松方正義 (薩摩出身)

- 不換紙幣を整理 してインフレを抑える
  - i 増税や新税の新設
  - ii 軍事費を除く歳出圧縮
  - iii 不換紙幣を回収・焼却して市場紙幣量を減らす デフレ 政策※
- 1884 工場払い下げ概則廃止  
→安値でも売り払ってお金を作る

## ※デフレ政策とは

- ①印刷し過ぎた紙幣を減らす
- ②政府保有の正貨(金銀)を増やす  
=市場に流通する正貨を減らす

## 1883 国立銀行条例改正

…国立銀行から紙幣発行権 を取り上げ

国立銀行はただの「普通銀行」に転換

日本銀行 が唯一の発券銀行に。

金1.5gを含む1円金貨と、日本銀行券の1円紙幣の価値の差がなくなりました。

## 1885 銀本位制 確立

日本銀行券の銀兌換 を開始  
紙幣価値の信用を銀の希少価値で支える制度

貨幣信用制度確立→金利が下がって  
銀行から借りやすくなる

→1886~89 最初の 企業勃興 ブーム

## 農村を松方デフレ不況が直撃

厳しい緊縮、紙幣整理

⇒流通する紙幣量が3分の2に

⇒ということは物価も3分の2に下落

1881年から85年にかけて商品物価は下落が進み、貨幣価値は上昇していくので、貨幣を商品に替えるより貨幣のままでもっていた方がお得なのでお金の流れが悪くなります。

## ⇒ 松方デフレ不況

- 農民の作る30円の米が20円に。
- 贅沢品原料の 繭 は60円が30円に
- これに増税も加わり、農村が大変なことに

## ⇒自作農が没落

自作農…地租は 金納 なのに米が売れない

⇒田畑を売って 小作農 に没落しました。

## 寄生地主制の確立

地主…金貸し業や酒屋業、肥料業などを

営めることで地租を金納できたほか、

田畑を買い集めて大地主に成長し、

小作農の 米納 の小作料で生活して

自分は東京に移住して耕作から離れる

寄生地主制 確立

没落した農民は小作農や 都市の労働者 に

→松方財政が資本主義経済に労働者を供給!

資本主義の三要素く生産の三要素)

## 土地 資本 労働力

資本

松方デフレで成立した寄生地主が、莫大な小作料収入を都市の工業に株式投資して行って、産業資本家になっていきます。

労働力

田畑などの生産手段を持たず、自らの労働力を販売する以外に手段がない労働者は、松方デフレによって農村から都市部へ供給されました。